

記者会見資料

理財部 財政課

(担当 片柳 ２２－９３３１)

１ 件 名

令和７年度当初予算（案）の概要について

２ 内 容

(1) 予算編成の考え方

本市の財政を取り巻く環境は、市税収入が景気の回復基調により増加が見込まれる一方で、人件費が人事院勧告に基づく給与費の上昇により増加、扶助費も漸増傾向にあるほか、大雨災害等に対する防災・減災対策、老朽化が著しい公共施設の耐震化・長寿命化対策、急速な少子化・人口減少抑制のためのこども・子育て政策の強化、２０５０年のカーボンニュートラル実現に向けた対応等、様々な課題への継続的な取り組みが求められております。

これらを踏まえ、令和７年度当初予算は、緊急課題である豊穂川流域等排水強化対策、耐震不足である複数保育所の建替え、公共交通の充実のほか、こども・子育てへの切れ目ない支援に重点的に予算を配分する等、「田園環境都市おやまビジョン」の実現に向けた諸施策について、効率的・効果的に推進することができるよう予算を編成いたしました。

(2) 予算の規模

令和７年度一般会計当初予算の規模は、前年度比７９億円、１１．１％増の７９１億円（過去最大）となりました。

(3) 予算の特徴

① 「田園環境都市おやま」の推進

すべての市民のウェルビーイングに向けて「田園環境都市おやまビジョン」を推進するとともに、令和８年度を初年度とする「第９次小山市総合計画」の策定に取り組んでまいります。

② 次世代に向けた環境問題への対応

「ゼロカーボンシティ」「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて、「おやま脱炭素ロードマップ」に基づき、再生可能エネルギーの適地を設定するゾーニングを行うほか、モデル平地林の植生調査の実施等、本市の豊かな環境の次世代への継承に取り組んでまいります。

③ こども・子育てへの支援の拡充

「おやまこどもプラン」に基づき、妊娠期からの切れ目ない相談・支援体制を強化するほか、放課後のこどもの居場所づくり等、安全・安心な子育てしやすい環境づくりを行うとともに、地域全体で子育てを支え、こどもが自由に学び、健やかに育つことのできる「こどもまんなか社会」の実現に取り組んでまいります。

④ 防災・減災対策の強化

台風や集中豪雨による大規模な浸水被害や地震による災害への対策として、豊穂川の河道の拡幅・築堤をはじめ、杣井木川流域における集団移転の促進や輪中堤の整備、絹地区の同報系防災行政無線子局増設等に取り組んでまいります。

⑤ 公共施設の適正管理

老朽化が著しい道路・橋梁、公園、学校、保育所等の公共施設の更新及び長寿命化を推進するとともに、人口減少社会を見据えた公共施設の最適な配置に取り組んでまいります。

⑥ 社会基盤の整備

城山町三丁目第二地区市街地再開発、栗宮新都心第一土地区画整理、小山駅東口駅前広場等の生活基盤、及び新市民会館、サッカー場、弓道場、スケートボード場等の文化・スポーツ施設の整備を着実に推進するほか、A I デマンドバスの導入等公共交通基盤の充実に取り組んでまいります。

(参考) 主な経費の比較

(単位:百万円、%)

性質別	令和7年度		令和6年度		対前年度比		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	構成比
義務的経費	36,127	45.7	33,765	47.4	2,362	7.0	△ 1.7
人件費	11,389	14.4	10,168	14.3	1,221	12.0	0.1
扶助費	18,590	23.5	17,273	24.2	1,317	7.6	△ 0.7
公債費	6,148	7.8	6,324	8.9	△ 176	△ 2.8	△ 1.1
投資的経費	11,294	14.3	7,790	11.0	3,504	45.0	3.3